要旨

2004年3月、中央教育審議会・教育課程部会は外国語専門部会の設置を決定し、必修化に向けた課題の整理、解決策の検討を行うこととなり、小学校における英語教育が着実に必修化に向かいつつあるのが、今の時代の趨勢である。

台湾や日本も、国際化・グローバル化に対応できるように、英語能力の重視を始めた。本論文は脳生理学、早期外国語教育、バイリンガル教育の理論と現状を論じ、小学校に英語教育を導入することの課題と提言を論述する。

筆者は今まで考察した結果を基にし、小学校におけるバイリンガル教育の提言は以下の通りである。

（一）母語の確立の重要性
（二）バイリンガルを育てるには学校教育のみでは困難
（三）二つの言語体系の差異に関する指導の重要性
（四）言語への接触頻度と動機について
（五）偏見を生まない言語観を育てる
（六）一貫性のあるバイリンガル教育を実施する

母語の重要性では、台湾研究家・篠原正己氏は以下のように述べている。

> 言葉はその民族の伝承によって存在し、民族とともにある。伝来の文化とも不可分である。……継承するものを失った言語は滅亡するほかない[1]。

そのためには、母語に影響しないように、保護者たちも子どもの英語学習の一助になるよう、助力を願っている。

キーワード：脳生理学、臨界期、早期英語教育、バイリンガル

University Library 中國文化大學 圖書館 Chinese Culture University

[1] 関口勝（2007）『アジア研究所・アジア研究シリーズ No. 65―アジアの文化、特に思想・宗教・言語の多様性の研究Ⅲ：「揺れる台湾政情―遠のく台湾の正名」』亜細亜大学アジア研究所 p.13

摘要

2004 年 3 月，中央教育審議會．教育課程部門會議決定設置外語專門部會，針對必修化課題的整理、檢討解決策略而設置。小學英語教育著實朝向必修化是當今時代之趨勢。

台灣、日本為了能對應國際化、全球化，也開始重視英文能力。本論文以談論腦生理學、早期外國語教育、雙語教育之理論及現狀，論述小學英語教育實施的課題與建議。

筆者以目前為止考察之結果為基礎，小學的雙語教育建議如下。

（一）母語確立的重要性
（二）培育雙語人才只靠學校教育是困難的
（三）關於兩個語言體系的差異的指導的重要性
（四）關於接觸語文的頻率和動機
（五）培育無偏見的語言觀
（六）實施具有一貫性制度的雙語教育

母語的重要性，台灣研究學家．篠原正已發表如下。

語言是隨著民族的傳承而存在，與民族共存。和流傳下來的文化是不可分的。……喪失了繼承事物的語言只有滅亡一途。

因此為了不影響母語發展，家長們希望能成為孩子學習英文時的一點幫助。

關鍵字：腦生理學，臨界期，早期英語教育，雙語

University Library 中國文化大學 圖書館 Chinese Culture University